

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520561

研究課題名(和文) 福岡に残る洋学資料コレクション筑紫文庫資料を主対象とした近代日本語語彙の基盤研究

研究課題名(英文) Research of modern Japanese vocabulary aimed primarily for Western studies document collection Tsukushi library materials in Fukuoka

研究代表者

坂本 浩一 (SAKAMOTO, Koichi)

福岡女子大学・文理学部・准教授

研究者番号：30225809

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円、(間接経費) 210,000円

研究成果の概要(和文)： 現代日本語語彙の主幹を成すと言ってよい漢語語彙が大いに展開した幕末近代期の対訳資料について基本データとなる『漢語英訳辞典』の漢語語彙データベースを作成し、近代日本語語彙研究を進めることを主眼とした。研究対象とした『漢語英訳辞典』は九州福岡の貴重な洋学資料コレクションである九州大学筑紫文庫に収蔵されており、地方に眠る研究資料の活用は大いに意義深いことである。

今回の研究によって得られた主たる成果は次のとおりである。
(1) 電子データである『漢語英訳辞典』漢語語彙データベースの基盤部分の作成を進めた(一部についての修正入力と追加の入力を続けている)。(2) 研究論文4本を学術雑誌に掲載した。

研究成果の概要(英文)： The "Kango" vocabularies formed the main trunk of the modern Japanese vocabularies. In Meiji Era, many new "Kango" vocabularies were created at the process of the translation. The "Kango-eiyaku-jiten" is the representative large dictionary in middle Meiji Era, which has many new "Kango" vocabularies. This dictionary is in Kyusyu University Central library in Fukuoka Prefecture. The following results were brought about by this study. (1: The basic database of the "Kango" vocabularies of the "Kango-eiyaku-jiten") (2: The four research papers which are published in scientific journals)

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：日本言語文化史研究 国際言語文化交流史研究 日本語翻訳語彙研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本語研究において現代日本語語彙の主幹を形成している漢語語彙の調査研究は重要な研究テーマである。とりわけ、幕末明治期に多く産出された所謂「新漢語」を中心とした近代期における漢語語彙の調査分析はその資料の整理を含めて、必ずしも十全になされているとは言えない。

(2) 福岡という地方に残る貴重な洋学コレクションである九州大学筑紫文庫は幕末明治期の英学資料を中心に収集したものであり、これまでその存在は豊田實博士が『日本英学史の研究』において紹介されたものの、個々の資料について研究活用がさほど進められていないという実態があった。

2. 研究の目的

今回の研究課題の目的は、次の2点である。

(1) 九州大学筑紫文庫に存する『漢語英訳辞典』という大型対訳辞書資料の漢語語彙データベースを作成することで、幕末明治期漢語語彙研究の今後の発展に資すること。

(2) 『漢語英訳辞典』漢語語彙データベースのデータの一部を活用して近代漢語語彙研究の論文発表を行うこと。

3. 研究の方法

(1) 『漢語英訳辞典』の資料本文確認：九州大学筑紫文庫に蔵される『漢語英訳辞典』の本文について影印を取り、欠落している本文については国立国会図書館が提供している近代デジタルライブラリーの画像資料に基づいて補填する。

(2) 項目冒頭の漢語見出し語形を電子テキスト化してエクセル文書上に入力して行く。加えて出来るだけ語学上有益なデータ(例えば自動詞・他動詞の表示、「coll.」注記等について)拾い上げ、入力して行く。

(3) 入力分量が極めて大きなため、入力補助者(学生アルバイト)の分担作業を交えて入力を進める。

(4) 『漢語英訳辞典』漢語語彙データベースの基本版を作り上げる。

(5) 『漢語英訳辞典』漢語語彙データベースのうち利用できる部分については、当代対訳辞書資料群の漢語語彙研究に活用し、学術論文として発表する。

4. 研究成果

(1) 『漢語英訳辞典』本文補填作業については、漢語語彙データベース入力前に終了させることが出来た。

(2) 『漢語英訳辞典』漢語語彙データベースについて、見出し項目については補助入力者を活用してかなり進めることができたが、入力不備等のチェックによって一部の手直しや改良を進めているため、より研究に活用しやすいものを目指して研究課題期間終了後も修正・追加入力を継続して行っている。

(3) 『漢語英訳辞典』漢語語彙データベ

スの利用可能なデータについては、当代対訳辞書資料群を対象とした漢語語彙研究に活用することが出来、学術論文4本として発表することが出来た。以下にその概要を示す。

(3-1) 学術雑誌『香椎潟』59号に掲載した論文「明治期日欧言語交流史の一研究 西山義行編『英和小字彙』における訳語収載状況をめぐって」においては、『英語節用集』、『英和掌中字典』、『華英字典』、『英和小字彙』、『新撰初学英和辞書』、『写真石版附音挿図英和字彙』、『漢英対照いろは辞典』、『岩波国語辞典7版』の各資料データに加えて『漢語英訳辞典』のデータを挙げ、当代における漢語語彙の動向分析に活用した。

明治10年代半ばに始まった第二次ブーム期も明治20年代に入ると『漢語英訳辞典』のような大規模な集成的対訳辞書を生み出すに至る。明治20年代において『漢語英訳辞典』よりも早い時期に成立している『英和小字彙』は、調査対象とした二字漢語477項目について見ると、『漢語英訳辞典』の収載状況に比して例えば次のような数値を示している。

【英和小字彙】

(対応する英語見出し項目の訳語において)

当該漢語収載項目 合計144 (30.2%)

当該漢語非収載項目合計333 (69.8%)

【漢語英訳辞典】

当該漢語収載項目 合計359 (75.3%)

当該漢語非収載項目合計118 (24.7%)

このことは、英和と和英の対訳方式の違いを考慮する必要はあるものの、やはり『漢語英訳辞典』の収載漢語の豊富さを改めて確認させる。しかしながら、第二次ブーム期においても、明治10年代後半成立の英和辞書群では例えば次のようになっている。

【新撰初学英和辞書】

(対応する英語見出し項目の訳語において)

当該漢語収載項目 合計144 (30.2%)

当該漢語非収載項目合計333 (69.8%)

【写真石版附音挿図英和字彙】

(対応する英語見出し項目の訳語において)

当該漢語収載項目 合計159 (33.3%)

当該漢語非収載項目合計318 (66.7%)

漢語収載項目に関して見れば、『新撰初学英和辞書』は所収部別の数値は異なるものの合計した値では『英和小字彙』と同じ値で30.2%、『写真石版附音挿図英和字彙』も33.3%ということであり、いずれにしても『漢語英訳辞典』が当代訳語漢語類を広く収載している状況は揺るがぬものであると言えるのである。

(3-2) 学術雑誌『文藝と思想』78号に掲載した論文「明治期日欧言語交流史の一研究 中村国太郎編『寸珍和英字彙』の訳語収載状況をめぐって」においては、『英語節用集』、『寸珍和英字彙』、『漢英対照いろは辞典』、『岩波国語辞典7版』の各資料データに加えて『漢語英訳辞典』のデータを挙げ、当代における漢語語彙の動向分析に活用し

た。

調査対象とした二字漢語群について、小型とはいえおよそ1万6千項目の見出し項目を抱える『寸珍和英字彙』の収載状況の値は、大型集成辞書である『漢語英訳辞典』・『漢英対照いろは辞典』の高い値からすれば低いものであったが、『英和掌中字典』『華英字典』『新撰初学英和辞書』『写真石版附音挿図英和字彙』という当代の英和対訳辞書群と比較した場合のそれはより高いものとなっている。

このことは『漢語英訳辞典』のような大型集成辞書の収載量に対して、『寸珍和英字彙』が「序」に「普通所用ノ語ヲ挙テ」と記されるように、平易な語を取り込んでいく方針が、英和辞書群と集成的大型和英辞書との中間的な数値となって現れたものと考えられる。

(3-3) 学術雑誌『文藝と思想』77号に掲載した論文「明治期日欧言語交流史の一研究 青木輔清編『英和掌中字典』の訳語収載状況をめぐって」においては、『英語節用集』『英和掌中字典』『華英字典』『新撰初学英和辞書』『写真石版附音挿図英和字彙』『漢英対照いろは辞典』の各資料データに加えて『漢語英訳辞典』のデータを挙げ、当代における漢語語彙の動向分析に活用した。

第二次英学ブーム期に外国人ガピンスが編集した『漢語英訳辞典』は、第一次ブーム期に日本人編者青木輔清の編纂した『英和掌中字典』と比較した場合、現代日用の語彙として残る漢語群が存在する一方で、その大型辞書としての規模からすれば収載されることが想定されるような語群が立項されないなどの現象が確認された。当代大量に出回った漢語群の不安定な動きがこうして具体的に観察できたことが大きな収穫であった。

(3-4) 学術雑誌『香椎潟』56・57合併号に掲載した論文「明治期日欧言語交流史の一研究 『英語節用集』所収二字漢字表記語の『新撰初学英和辞書』における収載状況をめぐって」においては、『英語節用集』『新撰初学英和辞書』『華英字典』『写真石版附音挿図英和字彙』『漢英対照いろは辞典』の各資料データに加えて『漢語英訳辞典』のデータを挙げ、当代における漢語語彙の動向分析に活用した。

結果として、『漢語英訳辞典』は第二期の英学ブームが進行した明治20年代の大型集成的辞書資料として『漢英対照いろは辞典』と同様の数値を示すことを指摘し得た。

(4) 『漢語英訳辞典』と『英語節用集』の二字漢語一致率についてのまとめ

『英語節用集』二字漢語項目477について『漢語英訳辞典』と対照させた結果を示す。

『英語節用集』所収部別一致状況の集計

【宗教及哲学論派名称】の部

全3項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数2(66.7%)

対応する不立項〔-型〕項目数1(33.3%)

【学術名称】の部

全8項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数6(75.0%)

対応する不立項〔-型〕項目数2(25.0%)

【宗教家応用語】の部

全250項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数193(77.2%)

対応する不立項〔-型〕項目数57(22.8%)

【人品及官位】の部

全65項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数46(70.8%)

対応する不立項〔-型〕項目数19(29.2%)

【政治及法制】の部

全55項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数41(74.5%)

対応する不立項〔-型〕項目数14(25.5%)

【政治家応用語】の部

全72項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数51(70.8%)

対応する不立項〔-型〕項目数21(29.2%)

【堂屋及処名】の部

全14項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数10(71.4%)

対応する不立項〔-型〕項目数4(28.6%)

【年代及歴史】の部

全10項目において次のとおり。

対応する立項〔○型〕項目数10(100.0%)

対応する不立項〔-型〕項目数0(0.0%)

上記の数値データを活用して、例えば『華英字典』『写真石版附音挿図英和字彙』『漢語英訳辞典』『漢英対照いろは辞典』の『英語節用集』との一致収載率を〔 〕型で比較すると、次のようになる。

・『華英字典』対応する〔○型〕14.5%

・『写真石版附音挿図英和字彙』対応する〔○型〕33.3%

・『漢語英訳辞典』対応する〔○型〕75.3%

・『漢英対照いろは辞典』対応する〔○型〕78.0%

これらを見れば、調査対象となった対訳資料群が概ね次の3グループに分かれることが確認できる。

【第 群】初期中国系対訳辞書：『華英字典』

【第 群】初期欧米系対訳辞書：『写真石版附音挿図英和字彙』

【第 群】集成的大型対訳辞書：『漢語英訳辞典』『漢英対照いろは辞典』

つまり、『漢語英訳辞典』の訳語漢語については明治初期の中国系の対訳辞書とも欧米系の対訳辞書とも異なる傾向を示しており、今後当代の対訳辞書資料群を語彙資料として研究に活用する上で重要な資料性が確認できることになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

坂本 浩一、明治期日欧言語交流史の一研究 西山義行編『英和小字彙』における訳語収載状況をめぐって、『香椎潟』、査読無、59号、2014、左1～14頁予定(印刷中)

坂本 浩一、明治期日欧言語交流史の一研究 中村国太郎編『寸珍和英字彙』の訳語収載状況をめぐって、『文藝と思想』、査読有、2014、左1～18頁

坂本 浩一、明治期日欧言語交流史の一研究 青木輔清編『英和掌中字典』の訳語収載状況をめぐって、『文藝と思想』、査読有、2013、左21～43頁

坂本 浩一、明治期日欧言語交流史の一研究 『英語節用集』所収二字漢字表記語の『新撰初学英和辞書』における収載状況をめぐって、『香椎潟』、査読無、56・57合併号、2012、左25～38頁

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕なし

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂本 浩一 (SAKAMOTO, Koichi)

福岡女子大学・文学部(2011年大学改組後の「国際文理学部」と兼任)・准教授

研究者番号：30225809

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし